

第2章

船橋市の地域特性

本章では、船橋市の地勢や気象などの自然的特性や人口、産業、交通などの社会的特性を示します。

第1節 自然的特性

1 位置・地勢

本市は、千葉県の北西部に位置し、世界有数の大都市東京と県庁所在地である千葉市のほぼ中間に位置しています。また、東京湾最奥部に面していることから、本市は陸上及び海上交通における重要なポジションを占めており、市勢の発展に有利な地理的条件を有していると言えます。

本市の面積は85.64km²、東西の距離は13.86km、南北の距離は14.95kmです。

地勢は全般的に低く平坦であり、標高の最高点は市北部（習志野3丁目）の32.3m、最低点は臨海部（南海神1丁目、湊町1丁目）の0.2mです。



図2-1-1 船橋市の位置

2 地形・地質

地形についてみると、概ね中央部から北部にかけて北総台地、南側が江戸川の三角州低地になっています。台地の中には海老川や神崎川などの河川が樹枝状に浸食した谷底平野があります。この台地と低地の間に位置する斜面には樹林地（斜面林）が残されており、市の北部・東部及び海老川上流部では湧水が複数確認されています。台地を細長く刻み込んでいる谷は谷津と呼ばれています。20年ほど前までは台地のふちからの湧き出す水を利用して谷津田が広がっていました。

地形的特徴としては、約15万年前の浅海に堆積した洪積層からなる台地と縄文海進により堆積した沖積層が陸化した低地がともに平坦な地形からなることと、人工による改変が著しいことの2つがあげられます。人工改変による地形については、中央部から南部にかけての切土地、盛土地といった人工地形がみられるほか、海岸部は埋立地となっています。

地質についてみると、本市域の地質は第四紀層から構成され、台地部では下総層群及び関東ローム層、低地部や谷底平野部では砂、粘土及び腐植土などで構成された沖積層が卓越しています。また、臨海部は埋立地堆積物から構成されています。

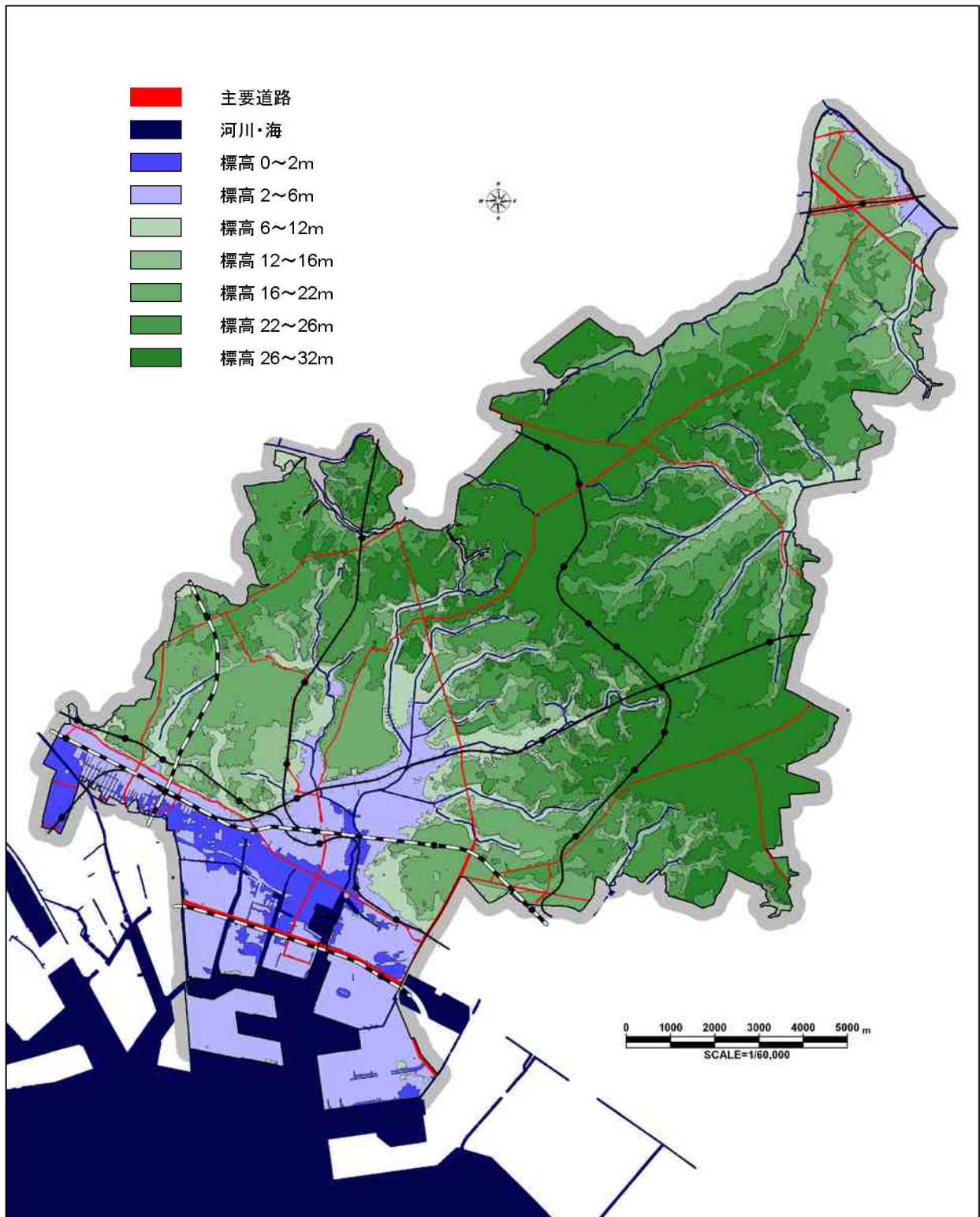


図 2-1-2 船橋市の地形

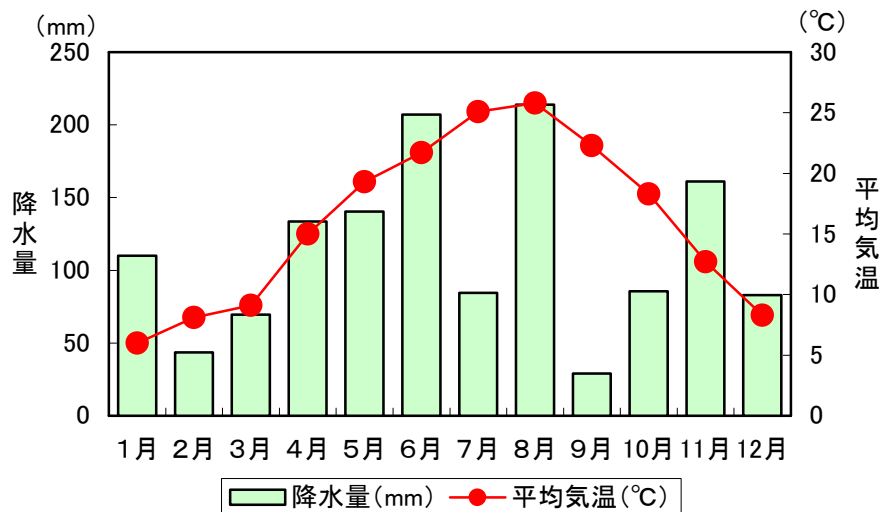
3 気象

近年の本市の気象をみると、年間の平均気温は約 15～16℃、平均湿度は約 60～70%、平均風速は約 2.0m/s、年間降水量は約 1,100～1,700mm であり、比較的温暖な海洋性気候を示しています。

表 2-1-1 気温、年間降水量等の推移

項目	平成13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
平均気温(℃)	15.0	15.8	15.4	16.3	15.2	15.6	15.9	15.7	16.0
最高気温(℃)	37.0	35.0	33.0	37.0	36.0	36.0	37.1	35.6	34.4
最低気温(℃)	-4.0	-2.0	-2.0	0.0	-2.0	-4.0	-1.0	-1.1	-0.4
平均湿度(相対)(%)	63	70	72	70	68	71	68	64	65
平均風速(m/s)	2.1	2.1	1.9	1.9	2.3	2.3	2.2	2.1	2.3
年間降水量(mm)	1,377	1,083	1,559	1,585	1,260	1,655	1,171	1,434	1,361

資料：船橋市消防局資料



資料：銚子地方気象台資料

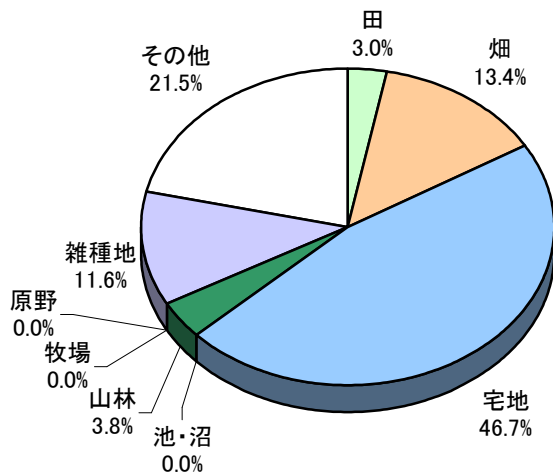
図 2-1-3 気温、降水量 (平成 21 年)

4 土地利用

船橋の大地は縄文時代にはカシヤシイの常緑広葉樹の森が広がり、水田稲作農業の伝播した弥生時代以降は、低地は水田として利用されてきました。台地は17世紀後半以降に原野が開墾され畑作地が広がっていきました。また、戦後になると海面埋立による工業団地造成が進められるとともに、鉄道・道路網の発展に伴い宅地造成が進行し、山林や農地が縮小するなどの経過を経て、今の土地利用に至っています。

地目別面積をみると、市域の半分近くを宅地が占めています。また、田や畑の農地は約16%、山林は約4%となっています。

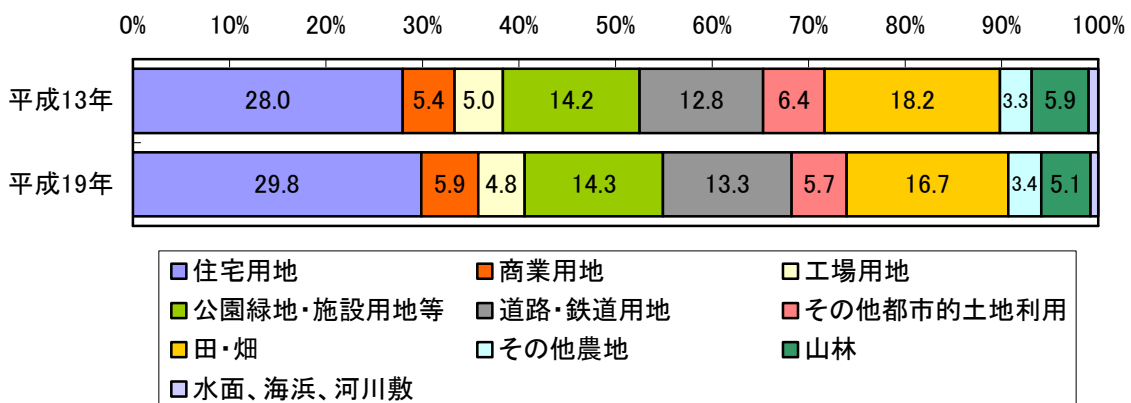
本市の土地利用の概況をみると、市域南西部及び東部の鉄道沿線付近は都市化が進み、宅地や商業用地などとして利用されています。臨海部は、埋立により工業用地や港湾として利用されています。市域中央部の海老川沿い及び北東部は、大部分が農地や樹林地などとして利用されています。



注：地目別面積図は平成22年1月1日現在の固定資産台帳を地目別に集計したものです。このため土地利用図の結果と違いがあります。本文の説明は、地目別面積を使用しています。

資料：船橋市税務部固定資産税課「固定資産概要調書」

図2-1-4 地目別面積



- 注1. 公園緑地・施設用地等：運輸施設用地、公共用地、文教・厚生用地、都市公園・広場・運動場・墓園等の公園緑地、ゴルフ場等のレクリエーション施設用地、自衛隊、米軍施設
- 2. その他都市的土地利用：未建築宅地、用途変更中の土地、屋外利用地
- 3. その他農地：採草放牧地、荒地、耕作放棄地、低湿地

資料：平成13・19年度 都市計画基礎調査

図2-1-5 土地利用の推移

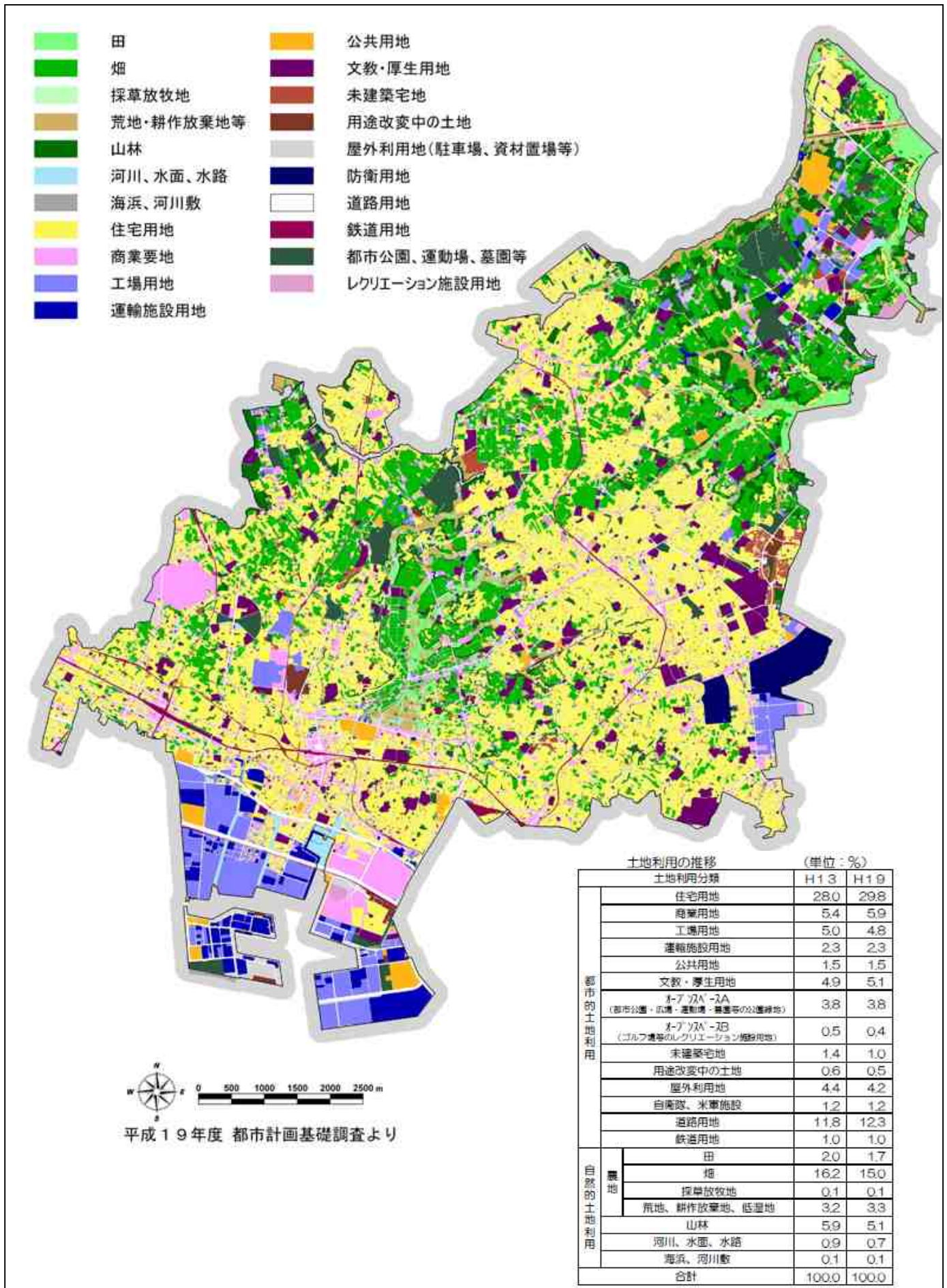


図2-1-6 土地利用現況図(平成19年現在)

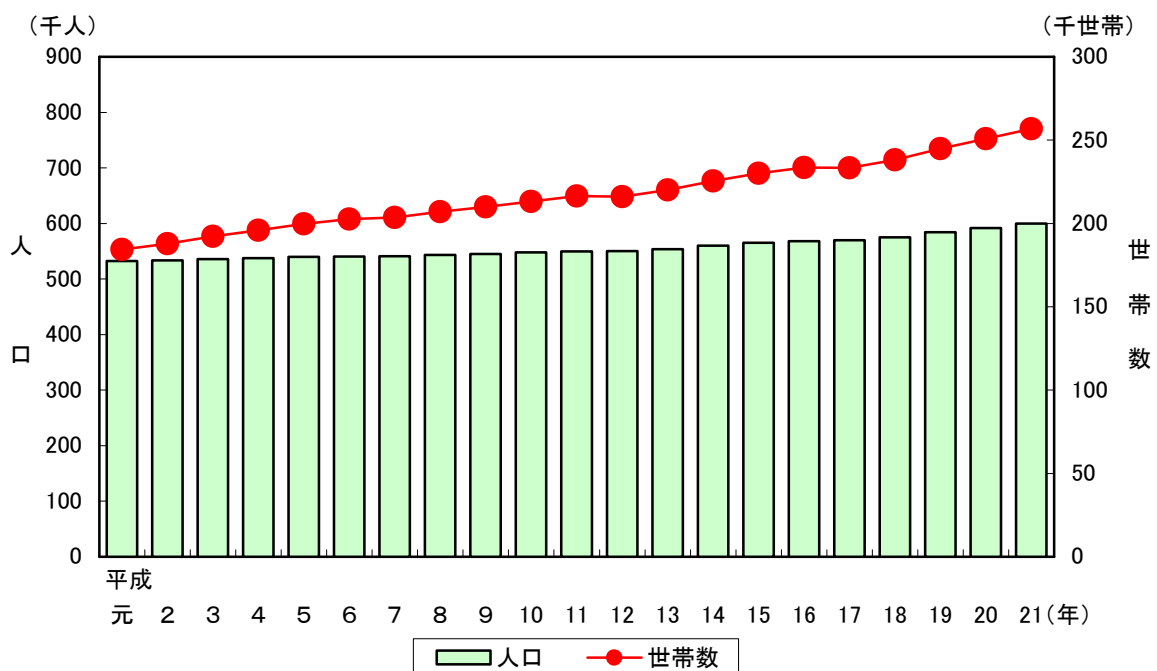
第2節 社会的特性

1 人口・世帯数

平成21年10月1日現在の本市の人口は600,025人、世帯数は256,765世帯です。また、1世帯当たりの人員は2.34人です。

本市は、高度経済成長期以降急激に人口が増加し、昭和58年に50万人を超えましたが、近年では以前のような急激な増加傾向は示さず、緩やかな増加傾向で推移しています。

これに対し、世帯数は一貫して増加傾向で推移しており、近年は核家族世帯だけでなく、単独世帯などの増加が進んでいます。



注. 各年10月1日現在の人口・世帯数を示します。

資料：船橋市総務部情報政策課資料

図2-2-1 人口・世帯数の推移

表2-2-1 人口・世帯数の比較 (平成21年10月1日現在)

項目	全国	千葉県	船橋市	比較	
				全国比	千葉県比
人口(人)	127,057,860	6,183,743	600,025	0.47%	9.70%
世帯数(世帯)	53,362,801	2,495,564	256,765	0.48%	10.29%
世帯人員(人/世帯)	2.38	2.48	2.34	-	-

注. 全国は、平成22年3月31日現在の人口・世帯数を示します。

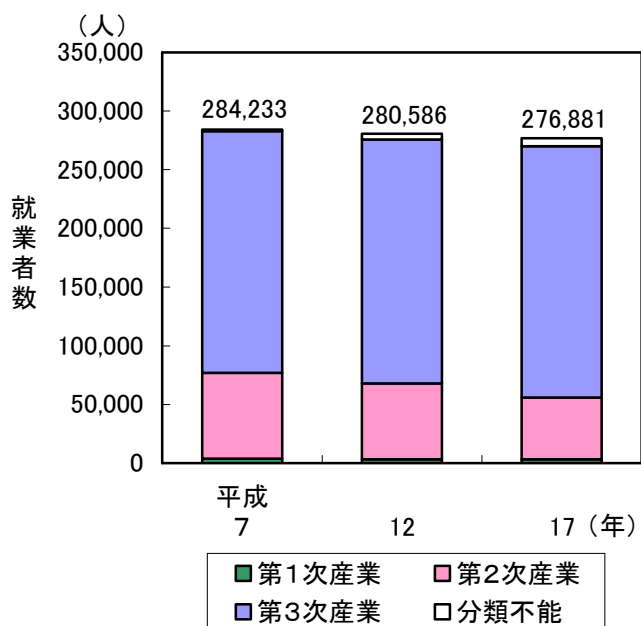
資料：総務省（住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数：平成22年3月31日現在）
千葉県毎月常住人口調査

2 産業・経済

平成17年度の本市の就業者数は276,881人であり、内訳をみると、第1次産業が3,150人、第2次産業が52,689人、第3次産業が214,168人、分類不能が6,874人です。就業者数は近年減少傾向で推移しており、これに伴い第1次産業と第2次産業の就業者数は減少傾向を示していますが、第3次産業と分類不能については逆に増加傾向を示しています。

平成17年度の本市の就業者数の構成比は、第1次産業が1.1%、第2次産業が19.0%、第3次産業が77.4%です。

本市は、全国や千葉県と比較して、第1次産業・第2次産業の就業者数の比率が低く、第3次産業の就業者数の比率が高いことが特徴です。また、第3次産業の中でも、卸売・小売業、サービス業の比率が全国や千葉県と比較して高くなっています。



注. 各年10月1日現在の就業者数を示します。

資料: 国勢調査

図2-2-2 就業者数の推移

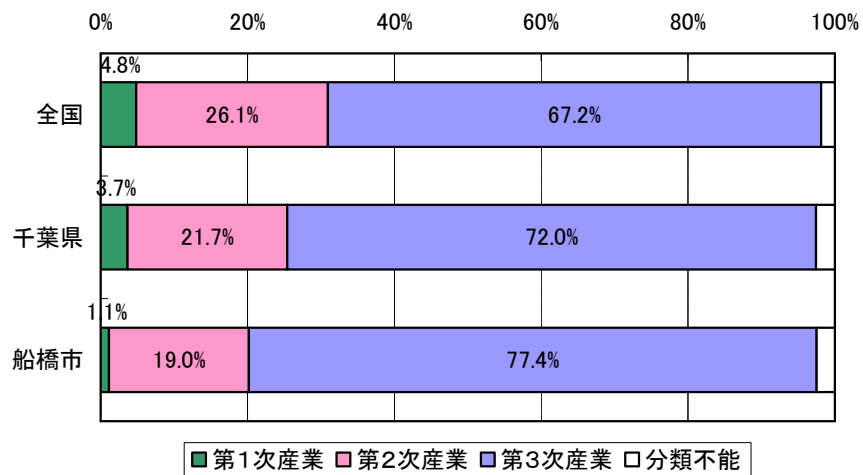
表2-2-2 就業者数の比較 (平成17年10月1日現在)

項目	全国		千葉県		船橋市	
合計(人)	61,505,973	100.0%	2,948,581	100.0%	276,881	100.0%
第1次産業	2,965,791	4.8%	107,971	3.7%	3,150	1.1%
第2次産業	16,065,188	26.1%	640,754	21.7%	52,689	19.0%
第3次産業	41,328,993	67.2%	2,124,422	72.0%	214,168	77.4%
(内)卸売・小売業	11,018,413	17.9%	537,483	18.2%	55,509	20.0%
(内)サービス業	8,819,754	14.3%	479,184	16.3%	48,577	17.5%

注1. 第3次産業については、就業者数の多い「卸売・小売業」と「サービス業」も併せて示します。

2. 合計には分類不能の産業も含まれます。

資料：国勢調査



資料：国勢調査

図2-2-3 就業者数の構成比 (平成17年10月1日現在)

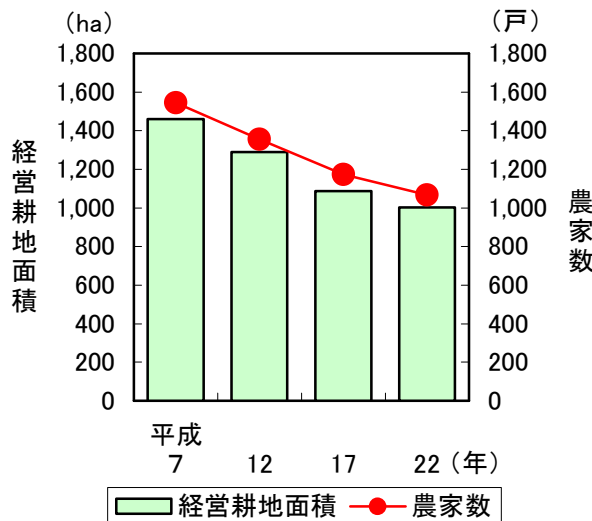
(1) 農業

本市は、市域の約17%が農地となっており、主に首都圏への食料供給のため、米や露地野菜を中心に果樹、花卉園芸、畜産など多様な農産物の生産を行っています。

平成22年の本市の経営耕地面積は1,002ha、農家数は1,067戸であり、いずれも近年減少傾向を示しています。

これに対し、農業粗生産額は、近年ほぼ横ばいで堅調な推移を示していることから、本市では、技術・経営の両面においてすぐれた農業が維持されていることが伺われます。

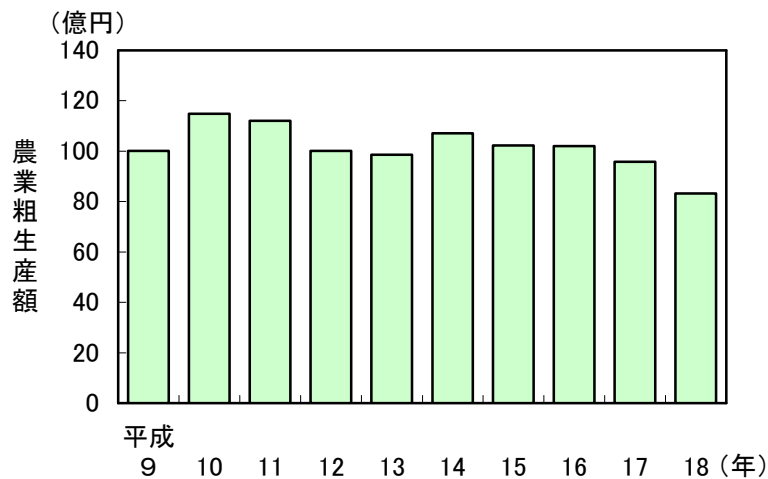
なお、平成18年の本市の農業粗生産額は、全国比が0.10%、千葉県比が2.07%です。



注：各年2月1日現在の耕地面積、農家人口を示します。

資料：千葉県総合企画部統計課「農林業センサス結果」

図2-2-4 農家人口、経営耕地面積の推移



資料：関東農政局千葉農政事務所「千葉県生産農業所得統計」

図2-2-5 農業粗生産額の推移

表2-2-3 農業粗生産額 (平成18年)

項目	全国	千葉県	船橋市	比較	
				全国比	千葉県比
農業粗生産額(億円)	86,321	4,014	83	0.10%	2.07%

資料：生産農業所得統計

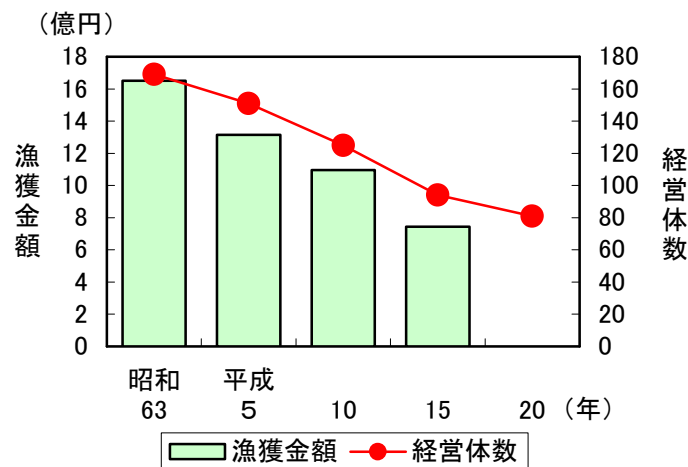
(2) 漁業

本市は、古くから内湾漁業の盛んな地域であり、習志野から浦安にかけて広範な漁場を占有する漁師町として栄えていました。

また、東京湾は、特にのりやあさりなどの浅海増殖業に適しているため、昭和48年3月の京葉港造成に伴う漁業権の放棄後も、本市では有効期間1年の短期免許によるのり養殖とあさり養殖が行われているほか、3年更新の免許による沿岸漁業が行われています。

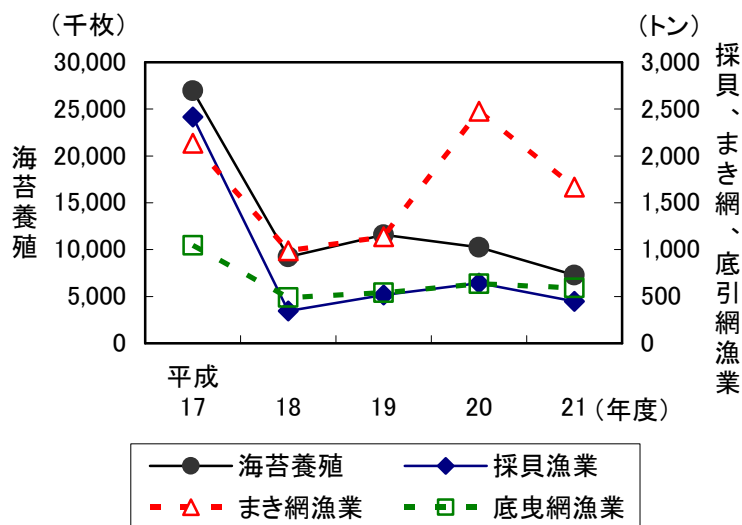
平成20年の本市の経営体数（個人・法人の合計）は81です。経営体数及び漁獲金額は、いずれも近年減少傾向を示しています。

現在、本市の漁業は、漁業従事者の高齢化や後継者不足の問題の他、例年の赤潮・青潮の発生等の漁業環境の問題など、多くの問題を抱えています。



注1. 各年11月1日現在の経営体数、漁獲金額を示します。
 注2. 漁獲金額については、平成20年調査より未集計となっています。
 資料：千葉県総合企画部統計課「漁業センサス結果」

図2-2-6 漁業経営体数、漁獲金額の推移



注. 採貝漁業：アサリ、バカガイ、ホンビノスガイ
 まき網漁業：スズキ、セイゴ、コノシロ、イワシなど
 底曳網漁業：カレイ、スズキ、セイゴなど

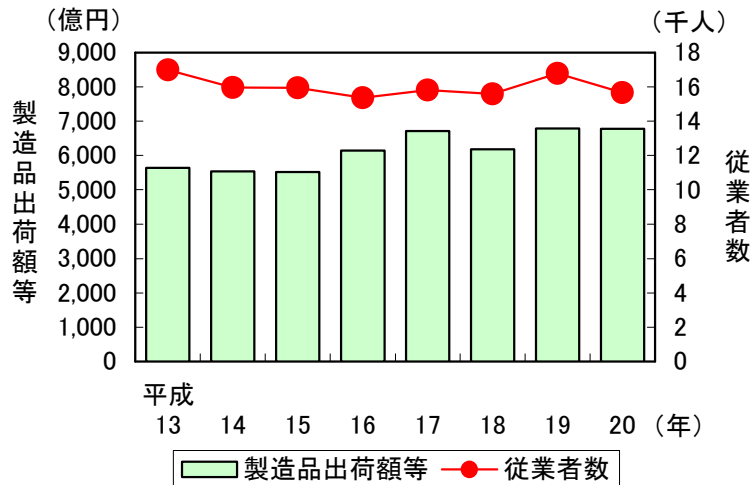
図2-2-7 漁獲量の推移

(3) 工業

平成20年の本市の工業の従業者数は15,662人、製造品出荷額等は6,779億円です。従業者数は、近年横ばいで推移していますが、製造品出荷額等は増加傾向で推移しています。

平成20年の本市の従業者数は、全国比が0.19%、千葉県比が6.86%です。これに対し、本市の製造品出荷額等は、全国比が0.20%、千葉県比が4.38%です。

本市は湾岸部に工業地区を有するものの、人口の全国比や千葉県比と比較して、従業者数の割合が少なく、それに比例し製造品出荷額等が少ないことが特徴です。



注. 各年12月31日現在の従業者数、製造品出荷額等を示します。

資料：千葉県総合企画部統計課「工業統計調査結果表」

図 2-2-8 従業者数、製造品出荷額等の推移

表 2-2-4 従業者数、製造品出荷額等の比較 (平成20年)

項目	全国	千葉県	船橋市	比較	
				全国比	千葉県比
従業者数(人)	8,364,607	228,369	15,662	0.19%	6.86%
製造品出荷額等(億円)	3,355,788	154,637	6,779	0.20%	4.38%

資料：工業統計

(4) 商業

平成19年の本市の卸売業の従業者数は7,389人、年間商品販売額は5,997億円です。卸売業では、従業者数、年間商品販売額のいずれも近年減少傾向で推移しています。

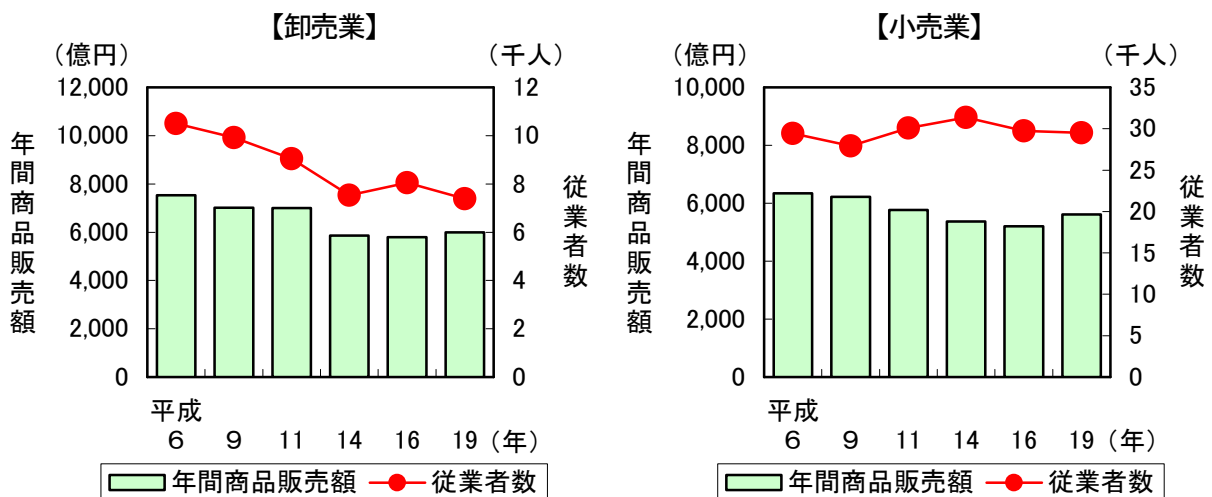
平成19年の本市の小売業の従業者数は29,517人、年間商品販売額は5,614億円です。小売業では、従業者数は近年ほぼ横ばいで推移していますが、年間商品販売額は減少傾向で推移しています。

平成19年の本市の卸売業の従業者数は、全国比が0.21%、千葉県比が8.80%です。これに対し、本市の年間商品販売額は、全国比が0.15%、千葉県比が9.13%です。

また、平成19年の本市の小売業の従業者数は、全国比が0.39%、千葉県比が8.93%です。これに対し、本市の年間商品販売額は、全国比が0.42%、千葉県比が9.76%です。

本市には大型商業施設がありますが、人口の全国比や千葉県比と比較して、小売業の従業者数の割合はやや少ないことが特徴です。人口の千葉県比と比較すると年間商品販売額の割合はやや多くなっています。

工業や商業の従業者数の比率などから見ても、本市は住宅都市、東京のベッドタウンと呼べる特徴を持っています。



注：平成6・11年は7月1日現在、平成9・14・16・19年は6月1日現在の従業者数、年間商品販売額を示します。

資料：千葉県総合企画部統計課「千葉県の商業」

図2-2-9 従業者数、年間商品販売額の推移

表2-2-5 従業者数、年間商品販売額の比較 (平成19年)

項目		全国	千葉県	船橋市		
				全国比	千葉県比	
卸売業	従業者数(人)	3,526,306	83,986	7,389	0.21%	8.80%
	年間商品販売額(億円)	4,135,317	65,672	5,997	0.15%	9.13%
小売業	従業者数(人)	7,579,363	330,640	29,517	0.39%	8.93%
	年間商品販売額(億円)	1,347,054	57,550	5,614	0.42%	9.76%

資料：商業統計

3 交通

本市は、首都である東京と県庁所在地である千葉市のほぼ中間に位置しており、両者を結ぶ交通の結節点として重要な位置を占めています。

鉄道についてみると、東西方向には JR 総武線、JR 京葉線、東京地下鉄（東京メトロ）東西線、京成線、東葉高速鉄道東葉高速線が走っています。また、南北方向には JR 武蔵野線、東武鉄道野田線、新京成線が走っています。この他、市域北部を北総線が走っています。これらの9路線 35 駅における平成 20 年度の 1 日平均乗車人員は約 90 万人であり、通勤時間帯の名駅は非常に混雑しています。このため、バス路線やその他の交通機関を含めた総合的な交通ネットワークの構築が必要となっています。

道路についてみると、東西方向には、市域南部（臨海部）に東関東自動車道、京葉道路、国道 14 号、国道 357 号（東京湾岸道路）、市域北部に国道 16 号などが走っています。また、南北方向には国道 296 号、県道船橋・我孫子線、市川・印西線、夏見・小室線などが走っています。本市の道路は、交通容量の不足とともにネットワークに欠けているため、交通渋滞の解消や道路周辺の環境改善などに向けて道路交通網の整備、交差点の改良、歩道・自転車道の整備などを推進しています。

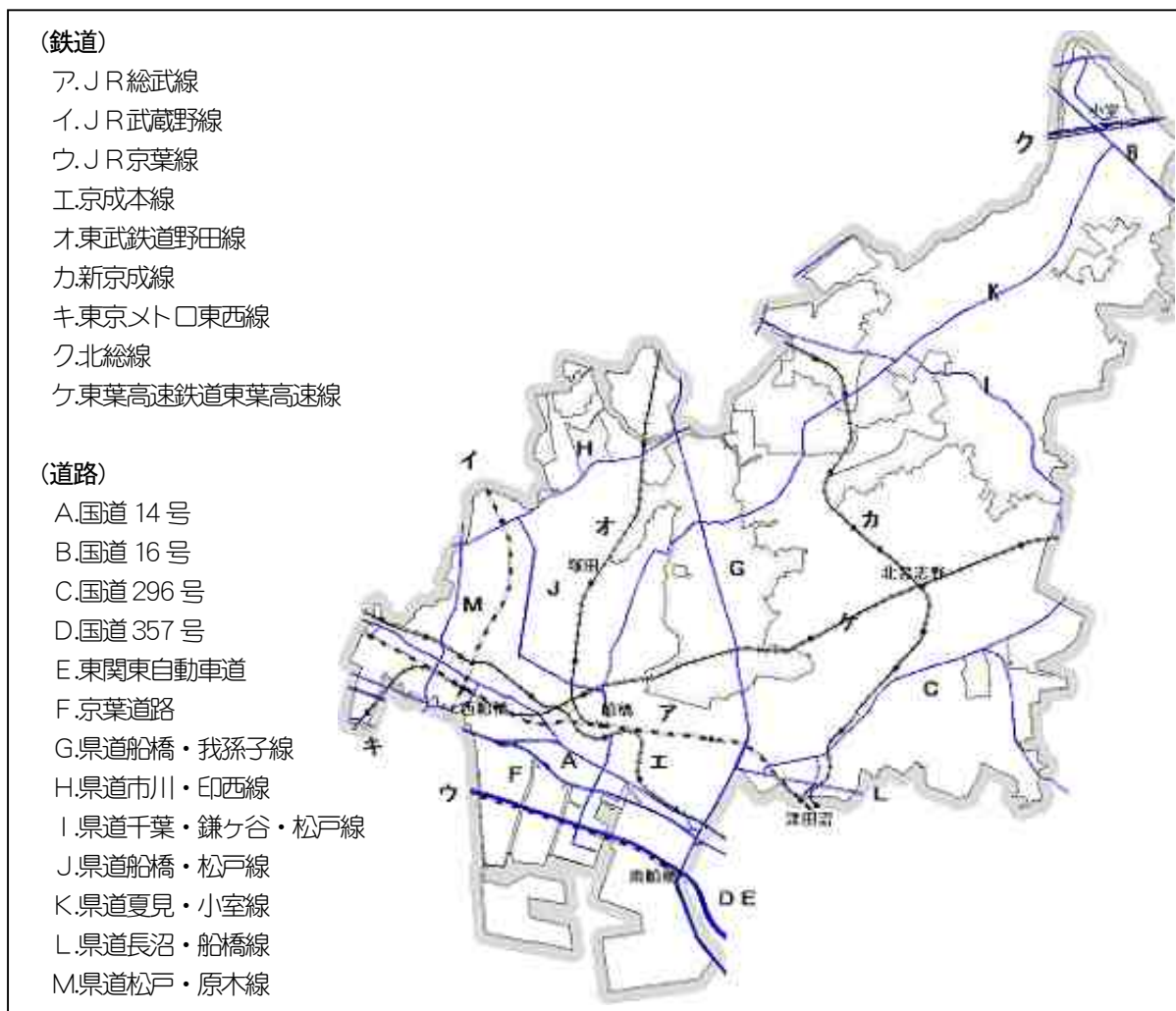


図 2-2-10 船橋市の交通網